

佐倉市・酒々井町 選出

千葉県議会議員

市民ネットワーク

川口 えみ 県政レポート

2023年9月発行



大丈夫か？ 千葉の海 ~ALPS処理汚染水~

今年の夏、千葉県は「千波県」のロゴマークを作り、千葉の海の魅力を全国に発信しました。
ところが、一大事です！



【ついに始まった汚染水の海洋放出】

8月24日、福島原発沖で、ついにALPS処理汚染水の海洋放出が始まりました。国はALPS処理水は安全だと説明していますが、トリチウムは除去できず、ストロンチウムやセシウムなど各種放射性物質が、排出基準値を超えて残留しています。現在保有する134万m³のうち5%が、基準値の100~2万倍の濃度です。原発事故で溶解した燃料デブリの冷却水と、地下水や雨水が混ざり合った汚染水をいくら海で薄めても、環境や魚介類への影響が心配です。

【約束を破った国と東電】

汚染水の海洋放出に猛反対する漁業関係者に対し、国と東電は2015年、「関係者の理解なしには如何なる処分も行わない」と文書で

約束を交わしました。ところが2021年、約束は破られ、海洋放出が決定。今も、千葉県をはじめ全国の漁業関係者は大反対しています。

【熊谷知事に要望書を提出】

他の方法としてアメリカでは既に、「モルタル固化」を実施しています。また、東電敷地内の土捨て場や、敷地周辺の中間貯蔵施設など、残存する広大なスペースに大型タンクを建てて保存する方法もあります。

全国一の水揚げ量を誇る銚子港は、海洋放出の場所からわずか188km。福島沖の親潮は、時に銚子まで南下します。千葉県の海の魅力を安心して全国に発信するためにも、ALPS処理汚染水の海洋放出に反対してほしいと、8月23日熊谷知事宛てに要望書を提出しました。

一旦事故が起きれば、次々と解決不可能な問題が起きる原発。再稼働にも新設にも反対します！



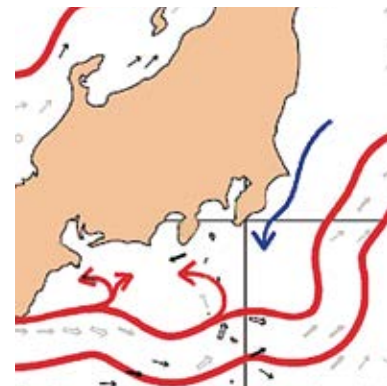
8月23日11時、知事宛てに「汚染水の海洋放出に反対するよう求める」要望書を提出。



午後1時半、JR千葉駅前でチラシ配りとリレートーク。



午後4時、記者会見。ほとんどの新聞社が来ました。



海上保安庁「海洋速報海流図」より。黒潮(赤色)が大きく離岸するとき、北からの親潮(青色)が千葉県まで南下してきます。

水が危ない! ~千葉県のPFAS汚染~

【PFASとは?】

有機フッ素化合物の総称で、消火剤やフライパンのコーティングなどに使われてきましたが、ほとんど分解されずに体内に蓄積され、発がん性が指摘されています。沖縄や東京多摩地区では、米軍基地の泡消火剤に含まれるPFASが地下水を汚染し社会問題となりました。(規制値はなく、暫定指針値はPFOS・PFOA合計50ng/L)

【千葉県の汚染は?】

環境省が4年前に行った全国調査で県内一高い数値は、白井市の下手賀沼に流入する金山落(かなやまおとし・用水路)で349ng/L。原因不明とされてきましたが、17年前、千葉県環境研究センターが行った金山落のPFAS調査記録を入手し、8月10日、現地視察を行いました。(図①)

なんと用水路の上流部に、自衛隊下総航空基地がありました! 基地のすぐ北部が700~1100ng/Lと非常に高い数値になっています。下総基地には、2年前まで5140ppmのPFOS含有消火剤が保有されていました。訓練で使用したのか、排水処理はどうなっているのか、さらに調査を進めていきます。

図① 金山落調査地点略図



8月10日 用水路は開渠と暗渠を繰り返す、基地まで繋がっていることを確認。

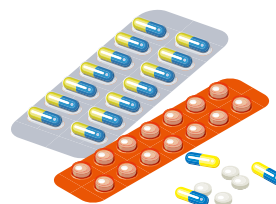
新型インフルエンザ治療薬 ~大量購入・大量廃棄の議案に反対討論~

国は、新型インフルエンザのパンデミックに備えて、治療薬の備蓄を都道府県に義務付けています。タミフルやリレンザなど、有効期限がくれば廃棄し、その分を新たに買い足しています。

千葉県の備蓄量は約87万人分ですが、これまで12年間の使用実績はわずか2000人分。焼却廃棄したのが累積117万人分! 「備蓄薬を市場に流せば価格の暴落につながる」として、製薬会社が廃棄を条件としているためです。

これまでの薬の購入費は、48億円。まさにお金をどぶに捨てるようなもの。

薬剤を無駄なく使用する流通の仕組みを作るよう、千葉県が率先して国に提言することを求める討論を、6月議会で行いました。



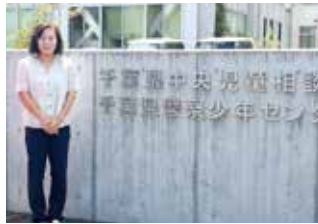
児童相談所を視察しました

千葉県内には、児童相談所が6か所あります。児童相談所に付設された一時保護所では、虐待などで家庭にいることが難しい子どもたちが暮らしています。増え続ける児童虐待を反映し、一時保護所も満杯状況が続いています。8月21日、千葉県中央児童相談所と市川児童相談所、29日に柏児童相談所を視察しました。

【中央児童相談所】

佐倉市と酒々井町を含む10市2町を所管しています。3年前に新しい建物に移転し、狭いスペースに子どもたちが雑魚寝を強いられるという状況は改善されました。しかし、一時保護のあとの子どもたちの受け皿となる児童養護施設も足りない状況で、一時保護所での定員超過と長期滞在が問題となっています。

職員の離職率の高さも課題となっていました。今年度から、県は人材の確保・育成に取り組む部署を設置しました。2026年度には(仮)印旛児童相談所が印西市に建設予定です。子ども達が安心して生活できる環境づくりを提案していきます。



8月21日
中央児童相談所の門の前で

震災から12年、奇跡の小学校を訪問

5月23~24日、津波被災地の福島県浪江町立請戸小学校を訪問。震災では多くの児童が亡くなりましたが、請戸小は津波が襲ってくる直前、先生と子どもたちの確かな判断と信頼関係で、全員が近くの山に避難できました。一瞬の判断が生死を分けるのだと強く実感しました。



津波で破壊された教室など、当時のまま残されています。



津波でボツと残された請戸小の全景。「震災遺構浪江町立請戸小学校」公式サイトより。

オーガニック給食 先進地韓国を視察

7月14~17日、韓国のファソン市で、オーガニック給食について学ぶことができました。韓国では、小中高すべての公立学校の給食が無償化され、有機食材を使っています。ハンサリム生協を中心に物流システムを整備し、食材の安定供給を実現。価格も一般食材より高値で安定しているので、有機に転換する生産者も増加中。千葉県でも早く実現するよう提案していきます。



学校給食用の有機メロンの栽培農家を訪問。「自分の孫に安全なものを食べさせたくて、有機に切り替えた」とか。学校給食に安定して供給できるので所得も増えたそうです。

小学校の給食調理室に、完全防護服で入りました。韓国の伝統料理中心の給食です。食中毒がないよう、毎食サンプルを保存し検査しています。



小学校併設の幼稚園の園児たち。カフェテリア形式の明るい食堂で、給食をいただきます。

岡山県真備町の豪雨災害現場を歩く

5年前、200人以上が死亡した西日本豪雨。岡山県倉敷市真備町では、51人も犠牲者が出ました。1級河川高梁川の上流部で大雨が降り、下流の小田川との合流点で越水した現場を視察。これは、4年前の佐倉市の水害(鹿島川と高崎川)とそっくりです。現地では河川付替事業が進められていましたが、「流域治水」との関連をさらに調べる必要があります。佐倉市で、また酒々井町の中川治水対策でも「流域治水」を実現化するよう声をあげていきます。



7月23日、真備町の豪雨災害の現場を視察



酒々井町中川の調整池建設予定地

首都圏最大の産廃処分場の環境汚染(君津市)

水道水源地の森林を伐採して造られた首都圏最大の産廃最終処分場。11年前に深刻な汚染水漏洩を起こし、大問題となりましたが、県の指導は弱腰で、事業者はデータの開示を渋り、改善作業も進んでいません。環境常任委員会で厳しく追及していきます。



7月27日 産廃最終処分場のゲート前

COLUMN

ある日突然ひき逃げ犯に!?

佐倉市民Aさんが、言いがかりに近い「通行者をひき逃げした」という容疑で書類送検され、結果は不起訴となりましたが、冤罪防止の観点から、警察常任委員会で質問。Aさんの車には最新式のドライブレコーダーが付いており、映像を見たところ、Aさんに全く瑕疵が無いことは一目瞭然でした。

この映像は証拠とならないのか質問したところ、「なる場合とならない場合がある」との曖昧な答弁。しかし、犯罪捜査規範第4条には「あらゆる証拠の発見収集に努める」とあります。

警察には一層の厳正かつ公正な捜査を強く要望しました。

連絡先 **市民ネットワーク千葉県**

〒260-0013 千葉県千葉市中央区4-10-11 アイビル4F

電話・FAX 043-201-1051

mail : info@chiba-kennet.com



お声を
お聞かせ
ください

